

令和5年3月10日

意見発表

鈴木委員

私からは最初に、今日報告のあった産業技術短期大学の清掃の不適切事件についてですけれども、私はこれを見て一つ思ったの。いつまでこういうヒューマンエラーというのを繰り返すんだろう、県庁の中で。いい加減にしろよと、私は言いたいね。そもそも産労という先端のいろんな政策をやるようなところが、何か突合がでしなかつたのだこのこの、そういうヒューマンエラーなんてあっていいのかね。私は逆に、あなた方が会計関係のところの部署と一体となって、システムなりプログラムをつくれれば、早く。そんなことしない限り、申し訳ないけれども、こんなヒューマンエラーが起こるなんて、常識的に私は考えられないと思うよ。例えば、今言ったWTO、私も詳細は知らないけれども、もしそこに3,000万円なら3,000万円と出たら、そこから先にいかないとかというプログラムをつくるのはそんな難しくないだろう。あなた方が頭を下げて、いつまでこんなことやっているんだらうと。某局長さんに私は言っておいたんだけど、いつまでこんなことやっているんですかと、ヒューマンエラーみたいな。それで、あなた方は

DXとか言っているわけだろう。ITだ、やれICTだの、何だか知らないけれども、DXがデラックスにならないようにひとつ頼みますよ。これ最初に言っておきます。局長中心になってしっかりつくってよ、産労中心になって。

2つ目は、神奈川のなでしこブランドについて、私も好きなことを言わせていただいたけれども、そもそもブランドってつくられていくものであって、最初からなでしこブランドなんてつけること自体が厚かましいなと私は思っています。その中で、お話しさせていただいたように、芽だとか種とかとあるならば、あなた方のやり方は、それは在り方として認めるけれども、芽とか種というんだったら、育てていくのが前提だろうと、私は質疑の中でも言わせていただいた。それを今後どのようにしていくのか。しっかりそこでもって育てていって、なおかつ芽や種を植えて、それがどう花が開いたのかというのを、県民に分かるようにちゃんと示してよ。それもなくて、いつも記念撮影が神奈川新聞に載るみたいなのは勘弁してもらいたい。これが2点目。

3点目は、中小企業の融資について、私も質疑させていただいたけれども、八十数%が小企業だというんでしょう。そうであるならば、その方々に伴走型のいろんなものの資料を出したって、目を通す時間もないような方もいっぱいいらっしやると思う。また、一つの融資なんかについても、壁をもうちょっと考えていただいて、より簡略な、例えば、数字だけ入れれば出てくるというような形の、要するに分かりやすい、また申請しやすいような対応をしなかつたならば、これは小企業、中小企業対策とは言っているけども、本当の意味での目玉になっていないんじゃないのかと。これをできるだけ早く作っていただきたいというふうに私は思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

4点目、さがみロボット産業特区についてですけれども、とにかくマクロの

政策をきちっと出してくださいな。何をやりたいのか。例えば、ここでも介護ロボットの話をして、私が提言して介護ロボット普及センターをつくってからもう十数年たつのに、今さら実装だどうのこうのと言っていると。課長にも私はお話し申し上げたけれども、そもそもがスタートとして、県民が何を欲しがっているのか、介護の現場だって。それができて、そして、またそれをチェックして、もう一度戻して、使っていただいてどうかというサイクルを明確にする、そういう一つのロードマップをきちっとつくってもらいたい。ということが4点目。

5点目は、脱炭素についてお話しさせていただくけど、ZEH等々についての目標が出ていました、KPIというの。その中でも出ているのであるならば、具体的にそこに、今どこまで来ていて、中小がどれぐらいあって、詳細をきちっとブレークダウンしたものが出てこなきゃおかしいじゃないか。それで、必ずそのところまで、何年までにやりますという一つの図式ができていなきゃおかしいのに、毎回毎回あそこのグランドデザインとかには、今の数値が突然出てきて、総括ってなされていないんじゃないかというのが1点。2点目は、今回の予算もEVの充電器と出ているけれども、ENEOS等々でも実証実験が間もなく始まるという流れの中で、逆に電池そのもの自体を変えちゃおうという、中国なんかでやっているようなことも取組を始めているようなものであるならば、その一つ一つに対して、新しいやっぱり施策というのが来るので、よく状況を見極めていただきたい。最後には、共同住宅の窓際に枠をつけたりする太陽光発電とか、道路と一体となるそういう太陽光発電とかと、私が質疑させていただいたけれども、やはり行政の一つの役割として、やはり県民の方々に夢を与えるというのも一つの仕事だろうと。そうであるなら、そういう現時点のものじゃなくて、将来このように持っていきたいというようなものについても出していただきたいということをお願いしたいというふうに思います。

最後に、産労の方々にもこれで最後の機会ですから、私がお話しさせていただきたいのは、一つ一つのことを、こうやりました、ああやりましたじゃなくて、とにかくマクロの政策を見せてください。ロボットにしても、例えば、脱炭素にしても、全てのことに対してマクロ政策というのほどこにあるんだろうと。だから、申し訳ないですけども、たかだか数百万円ぐらいのことに対して絶えず質疑するというようなことよりも、マクロの政策の中のここが必要なんですというような質疑を私はやるべきだと思うよ、今後。申し訳ないですけども、これはどうなんだというよりも、マクロの政策についての質疑を今後やるような土壌をつくっていただきたいということをお願い申し上げまして、諸議案に公明党として賛成させていただきます。